

(案)

薬剤耐性 (AMR) 対策アクションプランに係る食品安全委員会行動計画 2016-2020
2016 年度進捗状況の確認について
(2017 年 5 月 11 日 薬剤耐性菌に関するワーキンググループ)

2017 年 3 月、食品安全委員会は、科学的知見・情報の収集、国際動向への対応及び情報発信といった薬剤耐性菌に関する食品健康影響評価に係る課題に対し、リスク評価の一層の推進や向上に向け、2020 年度までに実施する行動計画を策定した。(資料4-2)

行動計画では、具体的な行動として、評価の実施、評価の実施に必要な科学的知見・情報の収集及びその他の3項目の取組を行うこととし、その進捗状況を薬剤耐性菌に関するワーキンググループにおいて毎年確認することとしている。

項目	2016 年度の取組状況等
4-1 評価の実施	
(1) 評価の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> 以下の抗菌性物質について評価を行い、それぞれリスクの程度は中等度であるとの評価結果を農林水産省に答申した。併せて、モニタリングの充実を含むリスク管理措置の強化や関連情報の収集について提言を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ①バージニアマイシン(飼料添加物)(2016 年 5 月) ②硫酸セフキノム(動物用医薬品)(2016 年 7 月) ③硫酸コリスチン(飼料添加物及び動物用医薬品)(2017 年 1 月)
(2) 再評価の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> 硫酸コリスチンの再評価の必要性を判断するため、評価書において更なる情報収集が必要とされたコリスチン耐性菌の発生動向や <i>mcr-1</i> 遺伝子の保有状況等に関する研究課題を採択し、2017 年度より実施することとした。(2017-2018 年度)(※4-2(1)と関連) ヒト医療における抗菌性物質の重要度の変化に基づく再評価の必要性を検討するため、WHO の CIA リストの改正動向について調査し、国内の重要度ランク付けへの影響が直ちにはないことを確認した。2017 年度に予定されている CIA リストの改正についても引き続き情報収集を実施し、重要度ランク付け改正の必要性の有無を確認する予定。
(3) 評価手法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 国際機関の基準・指針等の改正動向や諸外国(欧州、米国等)のリスク評価手法の検討状況について調査した結果、2016 年度は特段の動きはなかった。今後も引き続き動向を注視し、評価手法の見直しを検討していく予定。

4-2 評価の実施に必要な科学的知見・情報の収集	
(1) 評価に必要な調査・研究事業の実施	<p>○食品健康影響評価技術研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家畜とヒトとの間における薬剤耐性菌の循環に関する分子疫学および時空間比較ゲノム解析(2015-2016年度) <ul style="list-style-type: none"> - ヒト、豚及び食肉由来分離菌株の遺伝子解析を行い、家畜とヒトにおける薬剤耐性菌の遺伝学的関連性について明らかにし、今後、家畜からヒトへの薬剤耐性菌の伝播の可能性について評価をする上で有用な知見を得た。 ・食肉由来腸球菌の抗菌性飼料添加物に対する耐性と多剤耐性伝達性プラスミドとの関係についての調査・研究(2016-2017年度) <ul style="list-style-type: none"> - 国内外の鶏肉におけるバシトラシン耐性の実態の一部(薬剤感受性等)を明らかにした。2017年度は、実際に使用されている動物種における検討、耐性プラスミドと多剤耐性とのメカニズム等に重点を置いた研究を実施予定。 <p>○食品安全確保総合調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・畜水産食品における薬剤耐性菌の出現実態調査(水産関連プロトコル作成)(2016年度) <ul style="list-style-type: none"> - 水産分野における薬剤耐性菌の出現実態調査を行うために必要となる、ビブリオ属菌を指標とした水産関連プロトコルを各国に先駆けて作成した。2017年度はその実効性を確認するための試行調査を実施予定。
(2) ワンヘルスサーベイランスへの参画及び積極的な助言等	<ul style="list-style-type: none"> ・「薬剤耐性ワンヘルス動向調査検討会」においてワンヘルス動向調査の方向性に関する議論に参加し、リスク管理機関等が実施している既存のサーベイランス・モニタリング体制について情報を共有した。また、食品安全委員会事務局からこれまでの評価を踏まえた課題を提示した。(2017年2月及び3月)
(3) 国内外の関係機関との連携・協力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省動物用医薬品検査所(OIE コラボレーティングセンター)が実施するアジア諸国向けの薬剤耐性に関する研修において、食品安全委員会のリスク評価の仕組み及び手法について講義を実施した。(2016年11月) ・諸外国の関係機関へのリスク評価手法の情報発信として、硫酸コリスチン評価書要約を英訳し、食品安全委員会の英文電子ジャーナル「Food Safety」に掲載した。(2017年3月)

4-3 その他	
(1) 新たな知見・情報や課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、ワンヘルスサーベイランスの進展に応じて、課題を整理し、対応を検討していく予定。
(2) 薬剤耐性に関する知識・理解に関する普及啓発の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品安全委員会 HP に、薬剤耐性菌に関するページを新設し、食品安全委員会における取組について随時情報を更新した。 (http://www.fsc.go.jp/senmon/sonota/amr_wg/amr_info.html) ・ 食品安全委員会 Facebook(薬剤耐性菌に関する評価、硫酸コリスチン評価書、行動計画等について投稿)、メールマガジン、季刊誌等を利用し、幅広く国民への情報発信を行った。